

養浜についての勉強会 概要
～鎌倉海岸七里ガ浜地区の侵食対策について～

日 時：平成25年6月26日(水) 20:00～21:50
場 所：鎌倉市腰越学習センター 第3集会室

1 あいさつ

鎌倉の海を守る会及び藤沢土木事務所よりあいさつを行った。

2 七里ガ浜地区の養浜（侵食対策）について

- ・ 資料1に基づき、パワーポイントにて、「神奈川県での侵食対策への取り組み」について説明した。
- ・ 資料2に基づき、パワーポイントにて、「七里ガ浜の養浜（侵食対策）」について説明した。
- ・ 資料3に基づき、パワーポイントにて、「七里ガ浜の侵食対策（課題と対応）」について説明した。
また、養浜の事例として、茅ヶ崎中海岸の養浜事業について、パワーポイントにて説明した。（配付資料なし）

3 意見交換

主な意見は次のとおり（参加者、藤沢土木）

そもそも養浜とは、砂をどの部分にどういう形で投入するのか。

基本的には、砂がたまっているところから、なくなっているところに入れるサンドリサイクルという手法があるが、七里ガ浜では、砂を採取する場所がなく、外から1,000m³程度を入れざるを得ない。

養浜をするときには、侵食箇所全域に砂を置くなど具体的にはどのような方法で行うのか。

一般的な養浜方法としては、1箇所に集中的に計画量の砂を入れて、後は波の力に任せて、砂を拡散させている。

4月の現地説明会では、駐車場の前浜にダンプで上から砂を投入し、その砂が流されないように、砂の前に石を置くと聞いたが、どのように考えているのか。

駐車場周辺の侵食が、非常に激しいため、駐車場を利用してダンプで砂を入れるやり方も一例として説明したがやり方は再考する。

実際に、養浜材として、他から持ってくる当てはあるのか。

正直、厳しい。

飛砂が車道にたまり、道路清掃車が清掃しているが、その飛砂を利用し養浜できないのか。

歩道に溜まった飛砂はそのまま、砂浜に戻しているが、車道の道路清掃車によって集めた飛砂については、なぎさ港湾課で確認し、利用できるものは利用しているが、ゴミや泥などが混じっており、分別が難しく利用できないことが多い。

養浜したら、その後どうなるのかをきちんと調べてほしい。ここに砂がないから、入れるということを繰り返さないでほしい。

ご指摘のとおり、場当たりの砂の投入は避けなければならない。七里ガ浜の場合は、地盤沈降・飛砂・高波浪の影響と3つの侵食要因が考えられるが、明確な理由がもっと分かれば、養浜の質・量といったことを決めることができるが、今はまだ見えてない状況である。

また、養浜の質ということでは、粒径が粗ければ粗いほど安定するが、どういったものを投入するかは、地域の方々と議論しながら1番よいものを投入するのが、今のやり方である。

勉強会の参加人数が少ないことに驚いたが、勉強会の案内は、自治会で回覧されているのか。行政の方が、自治会に周知しているのか。

今回は、鎌倉の海を守る会に自治会への周知についてもお力をお借りしてしまった。次回からは、行政から地域の自治会に十分な周知をしていきたい。

私は、ずっと海の近くに住んでいるが、砂浜が侵食しているとは思っておらず、なぜ養浜するのか疑問である。それより、極楽寺川の導流堤が砂浜と段差があり非常に危険であり、こちらの対策の方が先ではないか。

導流堤と砂浜に段差が生じたのは、砂浜が減ってきているのが原因である。

養浜を実施するということは決まっているのか。

養浜は前から実施しており、時期と場所と質については、意見を聞きながら最適なものをやろうと考えている。

茅ヶ崎海岸の事例でいくと、何年ごとに実施し、いくらかかるのか。

毎年30,000m³の養浜を実施し、約2億円かかっている。

県全体で、養浜の費用はいくらか。

県全体の費用は、今は資料がなくて分からないが、少なくとも藤沢土木の管内では、茅ヶ崎海岸で約2億円、鎌倉海岸で約1千5百万円となっている。

七里ガ浜での養浜の効果はどうか。

今のところ、侵食を防止しているが、砂浜を増やすということではできていない。

地元が養浜をやってほしいかどうかで、事業の実施を決めるのではないか。

いろいろな意見があると思うが、道路の陥没や、侵食によって背後地の資産を壊してしまうなどの災害が発生しないようにする必要がある。

茅ヶ崎海岸は、相模ダムのしゅんせつ土砂を養浜材として利用しているとのことだが、七里ガ浜にも利用することは可能か。

茅ヶ崎海岸は、侵食が著しく最優先で養浜をしており、可能性はあると思うが、なかなか厳しい。

プリンス駐車場の東側の法面は、台風によって削られて、直していただいた後に、植生が回復するのを楽しみにしていたが、凝固材が入っているのか、表面が固く、植物が生えてこない。砂浜の植物にも配慮しモニタリングしていただきたい。

台風で大きく崩れた部分は、鎌倉市の公園課が持っているグリーンベルトであり、市が施工した。その後は、県が養浜しているが、砂浜を固くしてしまつたら、養浜ではないので、使う材料はよく検討して、余計な材料は入れない。

本日の勉強会資料や打合せの様子は、後日、藤沢土木事務所のホームページに掲載する。

また、次回は養浜の話を一歩進めた素案をお持ちし、今度は、行政から周辺自治会の皆様、本日お集まりの団体の皆様にお知らせして意見交換したいと思っている。

以 上